

◆関東羈旅 (カントウキリヨ) No.44
吾妻溪谷の秋(群馬県吾妻郡長野原町)

川原湯温泉駅

早朝の冷え込みを感じる秋、日本ロマンチック街道の通り道で知られる吾妻溪谷を訪ねてみました。日本ロマンチック街道は、栃木県日光市から長野県小諸市までの全長230キロメートルの広域観光ルートで、小径も入れると総延長350キロメートルに及ぶそうです。名称はドイツのロマンチック街道に由来し、沿線の自然がドイツ的自然環境を持っていることから、1988(昭和63)年には日本ロマンチック街道協会とドイツロマンチック街道協会とで、姉妹街道の締結を行い、人的交流・文化的交流の推進に併せて、未来に評価を受ける街道づくりを推進しているそうです。JR上野発の特急「草津号」に乗り、吾妻線に入ると車窓からは街道に沿った秋の風景が楽しめました。「川原湯温泉駅」で下車し、目的の吾妻溪谷を目指して歩き始めたのですが、工事用のフェンスが続く駅前には草も伸び放題で、ハッ場ダムの建設現場ということもあり、寂れた雰囲気も漂っていました。

川柳・吾妻溪谷にて

- ・谷淵の 爽籟に散る 楓の葉
- ・朧げな 川面に映る 橋の影
- ・政策の 狭間に揺れる ダムと町

鹿飛橋(しかとびばし)

吾妻溪谷遊歩道入口より滝見橋を渡ると、白糸の滝と栃洞の滝がありました。ここからは本格的な山道になっていて、汗をかきながら千人窟を越えて、小蓬菜という名の見晴らし台に着きました。真下に溪谷が見渡せる高い場所にあり、一息つける休憩所となっています。この吾妻溪谷は、火山が噴出した溶岩を吾妻川が浸食してできたとのことで、その美しい断崖絶壁の谷は「関東の耶馬溪」とも呼ばれているそうです。1935(昭和10)年に国の名勝に指定されており、見晴らし台よりしばらく歩くと、朱色に映えた鹿飛橋が見えてきました。鹿飛橋から溪谷を眺めると、高さは50メートルくらいあるのですが、橋の名前の通り、その幅は狭く、鹿なら飛び越えてしまうような気がします。ロマンチックな雰囲気を感じながら、街道の遊歩道に出ると、吾妻線には日本一短い「樽沢トンネル」がありました。戦時中の突貫工事で作られたトンネルは全長7.2メートルほどで、切り崩さなかったのは、トンネルの上に生えている一本松を残すためとの説があるそうです。特急が通過した際には電車がマフラーをかけているようにみえました。

近くには、殉難六団員の碑があり、1962(昭和37)年、消防車が溪谷に転落して6人の方が亡くなったそうです。吾妻峡橋より川原湯温泉までの街道を歩いたのですが、溪谷にある道の怖さを実感しました。

- ・見渡すと 紅葉かすむ 小蓬菜
- ・跳ばずとも 鹿も渡ろう 橋の上
- ・見下ろすと 足も疲れる 崖の淵

- ・壊さずに トンネル通す 吾妻線

不動の滝

温泉旅館街に入ると、川原湯神社があり源泉となっていました。足湯も利用できるのですが、神社でお参りした後、入浴料を払い、目の前にある「共同浴場王湯」に浸かることにしました。硫黄の香る浴槽には湯の花が舞い、山道を歩いた足の疲れをほぐしてくれます。浴場の向い側に「山路来て何やら床し菫草」と彫られた芭蕉句碑があるのですが、芭蕉が訪れた記録はないそうです。昔は温泉でにぎわっていたのだらうという名残を感じました。

帰路には新しく架けられた不動大橋より、全高が90メートルあるという不動の滝を眺め、「そば処やんば」でとろろそばを美味しくいただき、吾妻溪谷の散策を満喫することができました。

- ・湯の花に 硫黄が香り 癒されて
- ・山路来て なぜか芭蕉の 句碑があり
- ・枯葉舞う 不動の滝に 魅せられて

「海員だより」